

## トラン バオ クイン

ベトナム出身

上智大学 グローバルスタディーズ研究科グローバル社会専攻 修士課程

### 今までの引っ越しについて

2年間の大学院生活が終わりに近づき、7月から引っ越しの準備をし始めました。荷物を減らすために、部屋の中の不用品を処分したりしているので、今回は日本での引っ越しの話をシェアしていきたいと思います。

日本に来てから、私は引越しを4回経験しました。立命館アジア太平洋大学に通った時、寮で3年間生活していましたが、寮内に3つの部屋も変えたことがあります。私が住んでいたそれぞれのフロアに対して、特別な思い出を持っています。一つ目のフロアでは、親元を離れてはじめての一人暮らしの日々を送っていました。そこで、2016年の熊本大震災を体験し、緊急事態に対して日本人の冷静な対応方法が印象に残っています。その地震の体験がきっかけで、寮生に安全で安心な生活を提供したいと思い、寮長に応募しました。私は外国人の寮長なので、もう一人日本人の寮長と組み、寮生と共に寮で生活し、約30人いる一つのフロアを担当しました。

新人の寮長として担当した時のフロアはとても穏やかでした。7割の寮生は大学院生の方なので、まじめに学業に取り組む方が多かったです。他のフロアに比べて、イベントの計画が盛んに取り組まれていないかもしれませんでしたが、よく大学院生の方々に料理を作っていました。優しく接してもらいました。そして、

寮での最後の6ヶ月は、他の男女のミックスフロアに移転し、周りの寮生は「ウインドおねえちゃん」と呼んでくれました。特に、そのフロアの日本人は英語学習のモチベーションが非常に高く、台所のテーブルで皆がよく英語授業の宿題のディスカッションや、私との英会話練習に力を入れた寮生が多くいました。この一年間に、生活と学業の面から多くの寮生をサポートすることで、新しい友達を作ることができました。

大学自体とその寮が山の頂上にあるため、寮から離れると、「下界に引っ越し」と言います。私は、寮長を卒業してから、もう一人の友人と一緒に下界に1年間住みました。私たちが選んだ2階建ての2階にある2DKの部屋は住みやすかったですが、隣人と騒音のトラブルが起きました。その部屋の床と壁は、部屋内に普通に歩いても足音が聞こえるぐらい薄いかった。入居してから、それに気づき、生活の中にスピーカーで音楽を流したり、大声で話したり笑ったりしないようにしていましたが、何回かクレームをうけました。この経験から、内見時に音のチェックは怠らないように心掛けています。

東京に引っ越ししてから、また寮の生活に戻ったが、あっという間に退寮の時期になりました。卒業後の新居についてはまだ固まっていませんが、また新しいチャレンジや発見と良き出会いがあると思います。